

紫原中学校  
学校だより



令和4年9月1日  
鹿児島市立紫原中学校

二学期  
スタート

実りの秋に、  
紫原中のさわやかな風を吹かせましょう！

校長 立部 剛

長いようであつという間ではなかったでしょうか。夏休みが終わりました。今年の夏休みも例年にも増して猛暑の毎日となりましたが、この暑さの中、子どもたちの熱い取組をたくさん目にしました。県中体連総合体育大会に市郡代表として、たくさんの生徒が多く競技で出場しました。残念ながら目標を達することができずに、負ける瞬間を迎えた子どもたちの姿もたくさん見ましたが、どの競技でも最後までベストを尽くす姿がありました。そんな中、陸上部と女子ソフトテニス部が九州大会に、そして女子ソフトテニス部が全国大会に出場できたことは、とても嬉しい出来事でした。また、文化的活動でも本校生徒が活躍しました。吹奏楽部や合唱部の各種コンクールや定期演奏会等での演奏、市中学校生徒弁論大会での最優秀賞受賞、美術部を中心にした美術展等での多数の入賞など目覚ましいものがありました。山形屋で行われた「海の絵画展」では、本校生徒の絵画が、他の学校を圧倒する数で展示してありました。観覧されていた一般の方が「紫原中はすごいねー！」とつぶやかれる声が聞こえてきて内心誇らしい気持ちになりました。私の夏休みの目標の一つは、これら子どもたちの活躍を、できるだけたくさん直接目にするものであり、応援のつもりで、いろいろなところに出かけましたが、逆に元気づけられている自分がありました。子どもたちには本当に感謝です。

学校でも多くの生徒の姿を見ました。炎天下の中、汗いっぱいかきながら新チームでの部活動の練習に取り組む姿。先生方のアドバイスを受けながら学習に取り組む姿。体育大会に向けての応援団練習も本格的に始まりました。各ご家庭での夏休みはいかがだったでしょうか。

さて、いよいよ2学期がスタートします。授業日数は1年が80日、2・3年が81日と最も長く、そして最も内容の濃い学期です。各教科とも学習が山場を迎え、学習内容も深まっていきます。日々の授業を充実させるなど、しっかり取り組んでいきたいと思えます。また、2学期には体育大会、学習発表会（合唱コンクール）と節目となる大きな学校行事を控えています。私は、この2つの行事を単なる体育や音楽のための取組と捉えていません。この2つの行事の目的をひと言で言えば、「仲間づくり」や「学級づくり」と捉えています。子どもたちには、これらの大きな行事を通して、一人一人違う個性の集まりである学級で、ひとつのものをつくり上げるという過程を経験してほしいと願っています。

新型コロナウイルス感染症拡大は、まだまだ予断を許さない状況ですが、保護者の皆様におかれましては、1学期と変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 9月1日に寄せて…

9月1日の2学期のスタートを楽しみにしている子どもたちがいる一方で、この日が、過去、18歳未満の子どもたちの自殺者が多い日として、毎年、社会問題になっています。4年前の9月に亡くなられた女優の樹木希林さんが、生前自ら命を絶つことについて講演されている様子についての報道を記録していました。次のような内容です。

新学期が始まる日、まわりのみんなが「おはよう、今日から学校だね」って笑顔で言葉を交わすとき、「私は学校に行きたくない」ということを考える気持ち、何となくわかります。だから思うの、そう思うこと、それはそれでいいじゃないって。《中略》

ある意味で、不登校もそうなんじゃないかと思うの。学校には行かないかもしれないけど、自分が存在することで、他人や世の中をちょっとウキウキさせることができるものと出会える。そういう機会って絶対訪れます。

私が劇団に入ったのは18歳のとき。全然必要とされない役者だった。美人でもないし、配役だって「通行人A」とかそんなのばかり。でも、その役者という仕事を50年以上、続けてこられたの。

だから、9月1日がイヤだなって思ったら、自殺するより、もうちょっとだけ待っていてほしいの。そして、世の中をこう、じっと見てほしいのね。あなたを必要としてくれる人や物が見つかるから。だって、世の中に必要のない人間なんてないんだから。

私も全身にガンを患ったけれど、大丈夫。私みたいに歳をとれば、ガンとか脳卒中とか、死ぬ理由はいっぱいあるから。無理して、いま死ななくていいじゃない。

だからさ、それまでずっと居てよ、フラフラとさ。

ガンを自ら公表されていた樹木希林さんの言葉だけに深みを感じます。どんな理由があっても、こうした悲しい社会問題はなくなってほしいと切に感じます。

# ～～ 第66回 鹿児島市中学校生徒弁論大会 <7月26日(火)> ～～

## 【最優秀賞】

### ダイバーシティ

3年 森 響輝

皆さんは難聴者という言葉を知ると、どんなイメージが湧きますか。手話や補聴器など言葉としては知っていても、深くは分からないという人がほとんどではないでしょうか。まずはそんな方のために、難聴者のことについてお話ししたいと思います。

難聴者とは、耳の聞こえにくい人たちのことを指し、その程度は、完全に聞こえない人や、大きい音なら聞こえるという人など個人差があります。そして、ほとんどは、補聴器や人工内耳など、聞こえをサポートする器具を身につけています。それでも健聴者と同じように聞こえるわけではありません。まるでエコーがかかったような音で聞こえたり、音の聞き分けが難しかったり欠点もあります。

では、そんな障害を持つ私たちが、日常生活ではどのようにコミュニケーションをとっているのか。私の学校生活を紹介します。

一つ目は、指文字というものについてです。指文字とは、手の形一つ一つで、「あいうえお」といった五十音を表すものです。これを使えば、授業中や補聴器を付けていないときなど、指文字を覚えてくれた友達に、声を使わず聞けるので、とても便利です。また、筆記用具等が手元にあるときは、紙に書いて会話をする筆談をしてもらうこともあります。



二つ目は、透明マスクについてです。コロナの流行により、みんながマスクを付けるようになりました。難聴者は、相手の口元を見て判断します。そのため、マスクが口元をさえぎり、何を言っているのか分かりにくい状態になってしまいます。そこで私は、先生方をお願いをして、授業の時、口元が見えるプラスチック製の透明マスクをつけてもらっています。おかげで聞こえやすく、とても助かっています。

このように、私は、たくさんの人たちの助けを得て、難聴者であることを理解してもらい生活しています。

皆さんは、ダイバーシティという言葉を知ることがありますか。ダイバーシティとは、多様性を意味する言葉です。人それぞれの個性を分かり合い、協力関係を築く。私は、一年生の時から、学級や、学年朝会で、自作のパワーポイントを使い、自分の耳のことをみんなに伝えてきました。そして、理解してもらったことで、難聴者だからと偏見をもたれることなく、総務をしたり生徒会の副会長として活動したりすることができています。

気が合わない人に対し、否定的になるのではなく、こういう人もいると肯定的に考えを改める。そういった些細なことでも、多様性を認め合える小さな社会が生まれると思います。そして、ゆくゆくは、外国人も障害者もみんなが互いに尊重し合い、輝いていける社会を、今を生きる私たちが創っていきましょう。



## 【9月のおもな行事】

- 9/1(木) 2学期始業式
- 9/2(金) 3年第1回共通テスト  
1・2年実力テスト
- 9/5(月) 体育大会全体練習開始
- 9/6(火) 第3回PTA理事会, 鹿児島大学学校体験実習
- 9/10(土) 土曜授業
- 9/14(水) 体育大会予行練習
- 9/16(金) 体育大会準備
- 9/18(日) 第56回体育大会  
⇒ 家族での昼食時間設定はありません。(生徒は弁当を持参)  
⇒ 乗用車での来校はできません。(路上駐車は禁止)  
⇒ 入場者の制限がありますので、事前にご確認ください。
- 9/20(火) 体育大会振替休日
- 9/22(木) 3年選挙出前授業
- 9/29(木) 市郡総体(駅伝競走)
- 9/30(金) 生徒会役員改選



※予定ですので変更になることがあります。



## 栄光の軌跡

### 【九州総体出場おめでとう】

- 陸上：女子共通200m 3年女子1名
- ソフトテニス：準優勝(全中出場へ)  
＜女子団体1回戦＞  
紫原2-1国見(長崎)  
＜準々決勝＞  
紫原2-0野津(大分)  
＜準決勝＞  
紫原2-1篠栗北(福岡)  
＜決勝＞  
紫原1-2東長崎(長崎)